

‘ふるさと発見’ スポット紹介



☆旧鉄砲道

江戸時代の享保 13 (1728) 年に鉄砲 (大筒) の訓練のため片瀬村から柳島村までの海岸に砲術訓練場を設け、それに沿ってできた道から鉄砲道と呼ばれたようです。



現在の鉄砲道 旧道
佐々木卯之助の碑

☆ラチェン通り



えぼし岩へ続く

昭和 7 (1932) 年にドイツ人の貿易商ルドルフ・ラチェンが建てた別荘 (約 12,000 坪) があつた通りで、江戸時代の漁場争いで、寛文 4 (1664) 年に幕府評定所の裁定で手白塚とえぼし岩を結ぶ線を「郷境」とした一直線の道です。

☆えぼし岩

高さ 15m ほどのえぼし岩は海岸から 1.6km 程の所にあり、約 800 万年前の地層が海の浸食を受けて見事な烏帽子状のピークとなっています。



姥島のえぼし岩

☆開高健記念館



原稿、洋酒、魚など展示

コピーライター、小説家、釣り師として活躍した開高健が昭和 49 (1974) 年から亡くなる平成元 (1989) 年まで活動の拠点として使っていた所です。
(平成 15=2003 年に開館)

☆佐々木卯之助の碑

江戸時代の鉄砲場役人だった佐々木卯之助は天保の大飢饉の頃、農民が立入り禁止の砲術訓練場で耕作しているのを黙認していたので地元は助かりました。(1830 年頃)



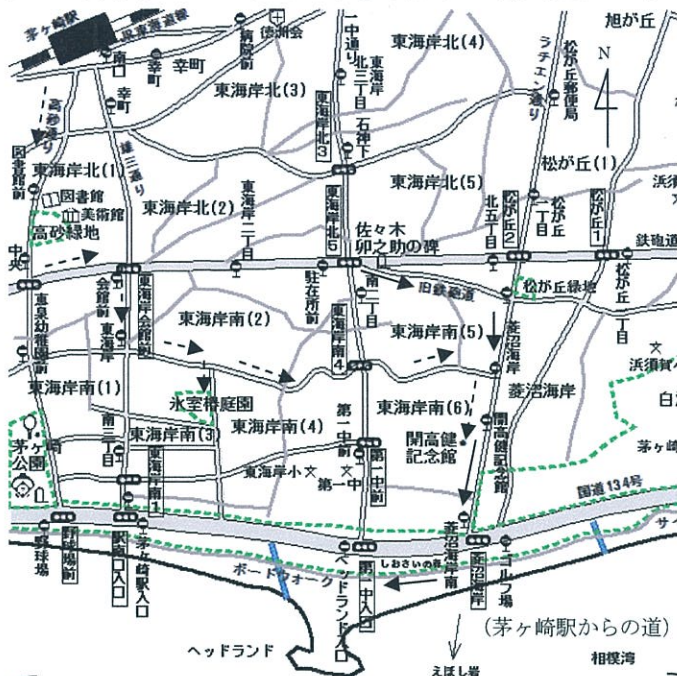
明治 31 年建碑

ぶらり散歩

駐在所前から斜め南に向かう道が古い鉄砲道になり、屋敷林をもつ昔ながらの邸宅があり別荘が建てられた時代 (明治~昭和) の雰囲気が残っています。

間近に見えるえぼし岩、野鳥や植物のしおさいの森、ヘッドランドから湘南海岸の展望を楽しめます。

冬には高砂緑地の梅、氷室椿庭園の椿、開高健記念館の越前水仙などが咲きます。(駅から 3 か所歩くと約 3.5km)



徒歩: 駐在所前(バス停)→佐々木卯之助の碑、旧鉄砲道、松が丘緑地、開高健記念館、海岸 (ヘッドランド)
歩程: 約 2 km、約 40 分
バス停: 茅ヶ崎駅南口から駐在所前 (辻堂南口行) ヘッドランド入口 (茅ヶ崎駅南口行)



“ちがさき丸ごとふるさと発見博物館”
茅ヶ崎全域を博物館と見立てて、地域の宝を活用して
①生涯を通じて学習したことを地域に活かせる
②文化が身近に感じられる
③ふるさとを愛する気持ちを持つ仲間が増やせる
“地域 (=まち) づくり!” を目指しています。

ちがさき

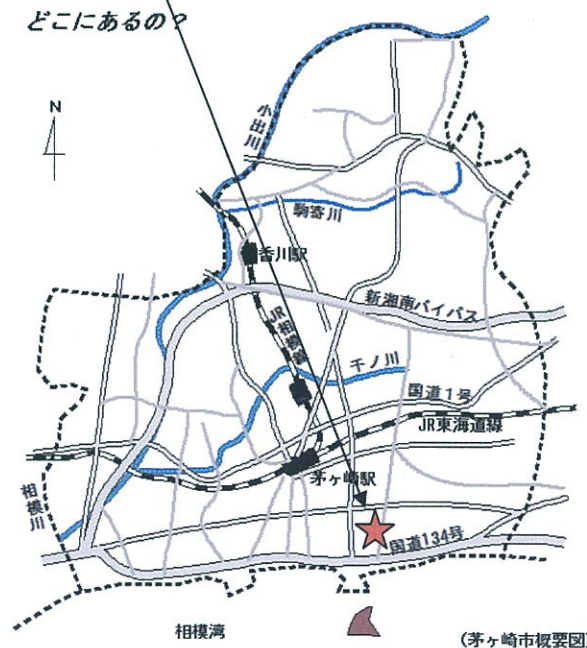
C-2

ふるさと発見 丸ごと博物館

旧鉄砲道から海岸へ

昔の面影が残る旧鉄砲道
屋敷林の残る建物と静かな通り
飢饉を救った佐々木卯之助
開高健記念館の想いに触れ
海岸でえぼし岩を目の前に

どこにあるの?



茅ヶ崎市教育委員会社会教育課

C-2 “旧鉄砲道から海岸へ”を調べる

→ は冬の花巡りコース

自分で探したものを絵や写真で追加しましょう!



高砂緑地 (原別荘、クロマツ、梅などの樹木) (2月:梅まつり)



氷室椿庭園 (椿約250種、約2,800㎡の庭に約1,300本の庭木) (3月:椿まつり)



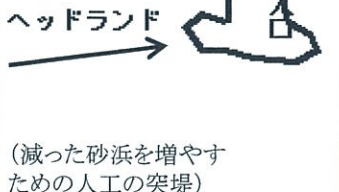
歩道橋から見る富士山 (1967年から残る防砂林の間を箱根マラソンは走る) (防砂林工事は1946年から)



遊歩道とボードウォーク (サイクリング、ジョギング、ウォーキングを楽しむ)



ヘッドランド(東から見る)



(減った砂浜を増やすための人工の突堤)



(豊富な漁場)



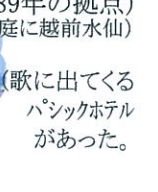
(約800万年前の地層)



(海岸の植物、野鳥が見られる)



1990年代の海岸



歌に出てくるパシフィックホテルがあった。



佐々木卯之助の碑 (天保の大飢饉の頃農民が砲術訓練場で耕作して助かった)



昔の面影が残る屋敷林のある家



松が丘緑地 (中泉別荘跡地)



岡十郎山の碑 (九代目市川團十郎別荘跡地)



ラチエン通りからえぼし岩が大きく見える



開高健記念館 (1974~1989年の拠点) (庭に越前水仙)